

## 「飯田らしい施設と事業」

基本理念・活動を実現する具体的なコト（事業・活動）は？

☆ 5つの基本方針：① 集う ② 観る ③ 創る ④ 伝える ⑤ 育む

☆ 施設機能：①鑑賞機能 ②創造支援機能 ③交流促進機能 ④管理運営機能

### ◆1班 需要と供給のハブになる事業の充実を

国内外で活躍している飯田の人たちの凱旋の機会を作り、次世代の育成に携わってもらうことで、良いスパイラルが地域を発展させるのではないかな。

リニア開通に際し、外から観客を呼ぶのは難しいという専門家の意見もあったが、識者を呼びやすくなる・学びやすくなるという考え方もできると思う。

「こういうものを見たい需要・できるという供給」のハブになるソフト事業を充実させていく必要がある。

### ◆2班 市民主体の活動のノウハウを活かして

「伝える」ことが、「集う」「観る」につながってくる。飯田で文化芸術に携わっている人や活動を、発信して広めていくことや、活動しやすい環境づくりが大事だと思う。また、オケ友や人形劇フェスタなど市民主体の行事が多いことは一つの長所。

ノウハウを活かすことで、市民団体の横のつながりや企画ができる。そんな組織ができると底辺が広がり、子供たちが携わっていれば「育む」につながる。バックアップできる体制があれば、活動も大きくなるのではないかな。

### ◆3班 「集う」ための企画と、ホトする機能を

「集う」を意識して企画し、仕掛けていくことが大事。よその人、地元の人、関係のない人に向けた「集う」ための機会を作り、

「集う」をサポートするサブホール、スタジオ、リハーサル室を、どれだけきちんと整備できるかが重要。

また、「大きな公民館」をイメージする場合、誰でも簡単に使えるように、サポートする機能も必要。集い、交流することで相互理解が深まり、広がっていくと思う。

### ◆4班 舞台と中身が調和する市民が育つ場所

どんなものを作りたいか、より、どんな使い方をすると良いか。建物が大きくても十分に使えていない、ということがないように、どんな人を呼べて、何ができるのか。

舞台と中身の調和が取れ、観る力、演じる力を育てることが大事。市民が育つ機能を併せ持つ場所であることが望ましい。

少子高齢化の時代、どうやって芸術文化に親しむかは、建物以外の部分にもっと視点を広げて学ぶことが必要。

### ◆5班 まずは楽しむ。その先に「育む」がある

関わる人が楽しむことが、「育む」につながる。市民が実行委員という形式が現在の文化会館の支えになっている。

一方、実行委員会のメンバーの固定化や重複して関わっている課題があり、もっと広がりがあったら良いと感じる。

どうやっていけば良いか市民で考える場や、少し高いところからみる組織も必要では。